

平成 28 年度事業報告

平成 28 年 3 月 1 日から平成 29 年 2 月 28 日までの事業報告

1 会員状況

1.1 法人会員及び団体会員

級 種	平成 28 年度末	平成 27 年度末	増 減
1 級	9 社	9 社	± 0 社
2 級	4 社	5 社	- 1 社
3 級	21 社	20 社	+ 1 社
4 級	33 社	33 社	± 0 社
5 級	69 社	69 社	± 0 社
計	136 社	136 社	± 0 社

1.2 個人会員

種 別	平成 28 年度末	平成 27 年度末	増 減
正会員	1028 名	1080 名	- 52 名
(内・名誉会員)	10 名	10 名	+ 0 名
(内・永年会員)	30 名	35 名	- 5 名
学生会員	109 名	63 名	+ 46 名
アジア海外会員	15 名	9 名	+ 6 名
アジア海外学生会員	4 名	0 名	+ 4 名
計	1156 名	1152 名	+ 4 名

1.3 名誉会員 (10 名)

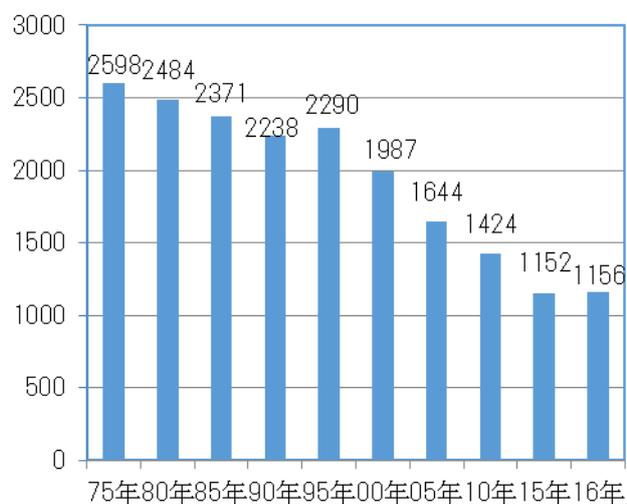
池田 功 伊藤 俊洋 大城 芳樹 荻野 圭三 北原 文雄 島崎 弘幸
 田嶋 和夫 常盤 文克 二木 鋭雄 早野 茂夫

1.4 日本油化学会フェロー (11 名)

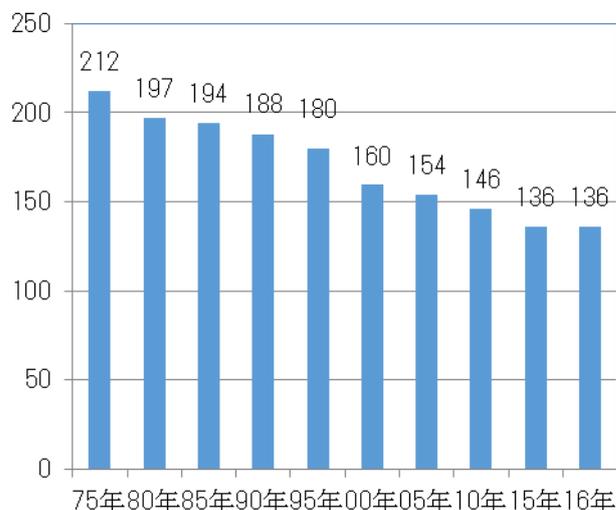
石上 裕 今栄東洋子 岩橋 槇夫 岡崎 三代 佐藤 清隆 菅野 道廣
 妹尾 学 武田 徳司 戸谷洋一郎 師井 義清 Ching T. Hou

1.5 会員数の推移 (個人・法人)

個人会員数の推移



法人会員数の推移



2 会務

2.1 総会

第62回定時総会を、平成28年4月25日、油脂工業会館9階会議室で開催した。委任状提出者、書面による表決者を含めて109名の社員（代議員）の出席を得て議案を審議した。平成27年度事業報告及び決算案が審議され、原案通り承認・可決された。また、諸規則の変更が承認・可決された。

ひきつづき、表彰式が行われ、つぎの各氏が推戴・表彰された。

- ① 日本油化学会名誉会員に、人間総合科学大学客員教授 島崎 弘幸 氏が推戴された。
- ② 日本油化学会フェローに、武田 徳司 氏が推戴された。
- ③ 平成27年度日本油化学会功績賞は、大阪大学名誉教授 小松 満男 氏に贈呈された。
- ④ 平成27年度日本油化学会学会賞・工業技術賞・進歩賞が次の各氏に贈呈された。

- ・学 会 賞 奈良女子大学生生活環境科学系 後藤 景子 氏
東京理科大学工学部 河合 武司 氏
- ・工業技術賞 花王株式会社 清水 将夫 氏 他4名
- ・進 歩 賞 千葉工業大学工学部 柴田 裕史 氏
東北大学大学院農学研究科 井上 奈穂 氏

- ⑤ 日本油化学会女性科学者奨励賞が（地独）大阪市立工業研究所 渡辺 嘉 氏に贈呈された。

つづいて、講演（演題・講師：「脂質液体の不思議 ―液体中脂質の動的構造の物性への影響―」・岩橋楨夫氏〔北里大学名誉教授 本会元理事・監事〕）が行われ総会に関するすべての行事が終了した。総会後の懇親会は、ラグナヴェール TOKYO で開催され、約60名が出席した。

2.2 理事会

定例理事会は5回開催し、平成27年度決算案の承認、平成28年度副会長の選定、運営委員長、各業務委員長、各支部長、各専門部会長等の選任（委嘱）、日本油化学会フェロー、功績賞、女性科学者奨励賞及び日本油化学会学会賞等の承認、平成30年度（第57回）年会開催地の決定及び実行委員長の選任等、重要案件について審議し決議した〔出席理事 延63名、出席監事 延12名〕。別に、定款第34条に基づく決議（書面による審議と同意）を2回実施し、内閣府に定期的に提出する書類（平成29年度事業計画等に係る提出書類等および平成27年度事業報告等に係る提出書類等）を承認した。

2.3 運営委員会及び業務委員会等開催状況

運営委員会を6回、支部長連絡会を1回開催した。なお各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

将来構想委員会	7回	総務委員会	3回
選挙管理委員会	1回	企画・部会統括委員会	4回
企画・部会統括委員会全体会議	2回	規格試験法委員会(含小委員会)	7回
編集委員会(オレオサイエンス)	5回	編集委員会(JOS)	1回
国際交流委員会	1回	学会賞等選考委員会	2回
役員等候補者推薦委員会	1回	功績賞等推薦委員会	2回

運営委員会は、当会の将来像を検討するための将来構想委員会を立ち上げ、「日本油化学の持続的な発展に向けて」議論を進め、第63回定時総会に新たな提言を行う。総務委員会は、ホームページのリニューアルの上程のため、委託業者の選定を行うとともに、更新する範囲等の検討を行った。財務委員会は、平成27年度決算案を理事会に上程した。また平成29年度予算書を理事会に上程するとともに、平成28年度決算書(案)を作成した。企画・部会統括委員会は、フレッシュマンセミナーを企画・開催した。また、アドバンスセミナーの見直しを行い、平成29年度から新たなセミナーとしてスタートする。規格試験法委員会は、『基準油脂分析試験法（2018年増補版）』の刊行のため、新規試験法のまとめ及び英文試験法の増補・刊行のための準備を進めた。また、3月には「界面活性剤評価・試験法」改訂第2版を刊行した。さらに、各編集委員会は、「JOS」誌及び「オレオサイエンス」誌の編集・発行（Web 上公開も含む）を行った。

3 事業報告

3.1 研究成果の公開，人材教育，研究の奨励及び業績の表彰を行う事業（公1）

3.1.1 研究成果の公開

3.1.1.1 第55回日本油化学会年会

日本油化学会関西支部の協力のもとに，後藤景子実行委員長を中心に実行委員会を組織し，準備及び運営を行い，3日間の会期で開催した。講演の合計が252件，参加者は514名と盛況であった。日本油化学会の援助により各専門部会によるシンポジウム・ランチョンシンポジウムを5件開催した。特別講演は，東京理科大学・阿部正彦氏「非DDSとしてのリポソームとセルロースを原料とするバイオ発電」，教育講演は，奈良県立橿原考古学研究所・奥山誠義氏「探る・護る・伝える文化財－科学が支える文化財の分析と保存・修復技術－」，花王株式会社・瀧村 靖氏「藻類を利用した持続可能な油脂原料の開発」，並びに国立研究開発法人海洋研究開発機構 出口 茂氏「深海とイノベーション：人類最後のフロンティアに眠る自然の叡智に学ぶ」であった。本年会独自の企画として，主題シンポジウム「小角散乱でナノ構造を知る」および「産学連携による商品開発」，並びにマスターズクラブ関西講演会を開催した。実行委員会は，第13回ヤングフェロー賞に伊藤隼哉，伊村くらら，山本幸弘の3氏を選考，油脂工業会館学生奨励賞に8氏，ポスター賞に10氏を選考し，表彰した。

会 期：平成28年9月7日（水）～9日（金）

会 場：奈良女子大学キャンパス

内 容：①参加者総数 514名

②講演件数

・受賞講演	5件
・特別講演	1件
・教育講演	3件
・部会シンポジウム・ランチョンシンポジウム	5件（講演数28）
・主題シンポジウム	2件（講演数8）
・マスターズクラブ関西講演会	1件
・一般講演（口頭発表）	117件
・一般講演（ポスター発表）	79件
・油脂工業会館油脂優秀論文賞受賞講演	10件

③懇親会

日 時：平成28年9月9日（木）18時～20時

会 場：奈良ホテル

参加者：275名

3.1.1.2 日本油化学会会誌（論文誌・会員誌）の発行

(1) 「Journal of Oleo Science」誌 第65巻 第1号～12号 総ページ数 1,067ページ

論文誌として，冊子版と電子版を発行しており，第65巻は原著論文114件，総説に関する Invited Commentary 1件，特集号（5月）に関する Editorial Message 1件を掲載した。特集（Topics of the 6th Asian Conference on Colloid and Interface Science 2015 Japan）には7件（うち総説4件）掲載した。また，ページ外で，投稿規定，入会案内等を掲載した。なお，Thomson Reuters 社より，Impact Factor (IFと略)が公開され，2015年は1.108，5年IFは1.161であった。J-STAGE（電子版）では，今年度からXML形式での公開も開始し（2件），WEB公開でのカラー版や電子付録（Supporting Information）の登載，および早期公開を継続推進している。また，掲載料方式を導入した。

掲載内容	報文	93 件
	ノート・速報	11 件
	総説	10 件

(2)「オレオサイエンス」誌 第 16 巻 第 1 号～12 号 総ページ数 620 ページ

特集 12 件を企画したほか、巻頭言、表彰、会務、若手研究者紹介、主催報告、学会情報、研究室紹介、書評など、会員に役立つ情報を中心とした会員向けの情報誌として編集した。さらに、総説中の図をわかりやすくするために一部カラー印刷を行い、また巻頭カラーとしての一括掲載を 2 ページ編集した。ページ外では、会告、目次、資料（「基準油脂分析試験法」追加のお知らせ）等を、324 ページ編集した。第 14 巻の総説類の J-STAGE 公開も実施した。

掲載内容	特集総説・受賞総説	42 件	（特集トピックス 1 件を含む）
	若手研究者紹介	4 件	
	油脂関連情報	122 件	（会員からの寄稿 2 件を含む）
	その他（巻頭言、表彰、会務、主催報告、学会情報、研究室紹介、書評など）		

3.1.2 人材教育

本部主催の人材育成事業は、企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し、フレッシュマンセミナー（油脂）、フレッシュマンセミナー（界面）の 2 件を行った。フレッシュマンセミナーのテキストには 2009 年 3 月に改訂・刊行した日本油化学会編纂の教本「油脂・脂質の基礎と応用（改訂第 2 版）」および「界面と界面活性剤（改訂第 2 版）」を使用した。参加者数は延べ 175 名であった。

若手の会委員会は、8 月にサマースクールとして、「商品開発のヒントになる油化学・界面化学の研究トピックス」をテーマとした講演会を開催し、産学官の若手研究者の交流を深めた。

3.1.3 研究の奨励・業績の表彰

本会では、油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰している。平成 27 年度の主な受賞者を、本報告の会務・総会の項で紹介した。平成 28 年度も、若手の研究者を奨励するための日本油化学会進歩賞、ヤングフェロー賞、油脂工業会館学生奨励賞の授与者を選考した。また、研究成果を表彰するため、エディター賞、オレオサイエンス賞、ベストオーサー賞等授与者を選考した。また本会の発展や油化学分野の科学・技術の発展に功労のあった会員として本会フェローへの推戴者および功績賞、学会賞等の選考も実施した。第 63 回定時総会の席上等で表彰する。

3.2 評価・試験法の標準化と普及を行う事業（公 2）

油脂および油脂製品の研究や品質管理等における油脂の品質を評価するための基準となる分析試験法（公的試験法）として刊行した『基準油脂分析試験法 2013 年版』について、従来の試験法の見直し作業の推進、新規の試験法の探索、新規の試験法の策定を行い、増補・改訂版刊行に備えるとともに、英文版基準油脂分析試験法について必要な見直しと増補のための作業を進めた。また、学生や研究者、工場技術者向けの界面活性剤の基準書として利用できる『界面活性剤評価・試験法』の改訂版を 3 月に刊行した。さらに、品質管理や研究開発を担う技術系職員および学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、11 月に第 14 回界面活性剤評価・試験法セミナーと第 16 回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法及び基準書の普及を図った。セミナー参加者は延べ 80 人であった。

3.3 地域における学術の振興と普及を行う事業（公3）

各支部による講演会・セミナー等を、例年に倣い開催した。また、各支部主催の講演会・セミナーの企画を充実させるため、幹事会等を下記のとおり開催した。

[支部委員会等の開催]

- ・関東支部 常任幹事会 3回，幹事会 1回
- ・東海支部 常任幹事会 3回，支部合同役員会 1回，支部将来計画委員会 1回
- ・関西支部 常任幹事会 1回，常任幹事会・幹事会合同会議 3回

[支部の行事開催]

各支部による講演会，セミナー等の行事は，延 11 回開催し，参加者数は延 575 名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延 50 名であった。

- | | | | | | | |
|-------|------|----|------|------|----|-----|
| ・関東支部 | 開催回数 | 3回 | 参加者数 | 140名 | 講師 | 12名 |
| ・東海支部 | 開催回数 | 5回 | 参加者数 | 271名 | 講師 | 18名 |
| ・関西支部 | 開催回数 | 6回 | 参加者数 | 228名 | 講師 | 25名 |

このうち，(一財)油脂工業会館共催の地区講演会は，6月に姫路市（関西支部），10月に大津市（関西支部），函館市（関東支部），11月に浜松市（東海支部）の4ヶ所で開催した。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を行い，地域における学術振興・普及に努めた。

3.4 学術専門分野の活性化事業（公4）

学術専門分野の活性化については，前年同様，オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、ライフサイエンス・産業技術部会、オレオナノサイエンス部会および食品油脂機能構造部会が活動を展開し、それぞれの専門分野を深耕した。また、マスターズクラブは、学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開した。講演会、セミナー等の行事は、延べ 24 回開催し、参加者は延べ 1,132 名を数えた。

オレオマテリアル部会は、9月年会で部会シンポジウムを開催した。また関東地区において「バイオマテリアル研究の最前線～再生医療から3Dプリンターまで～」と題したセミナーを開催した。界面科学部会は、9月年会で部会シンポジウムを開催した。また、「化粧品・洗浄料の先端技術とその応用」をテーマとした第63回界面科学部会秋季セミナーを開催した。その他、東海、九州の各地区セミナー・講演会を開催した。洗浄・洗剤部会は、9月の年会で「糖脂質型バイオサーファクタント“ソホロリピッド”の工業的生産と洗浄剤への応用」と題したシンポジウムを開催した。また、第48回洗浄に関するシンポジウムを開催した。オレオライフサイエンス・産業技術部会は、6月に「食品産業におけるカカオの利用」と題した部会セミナーを実施した。さらに、9月年会で「若手研究者による機能性食品素材研究の最前線」をテーマにシンポジウムを開催した。また「グリシドール脂肪酸エステル研究の最新動向」をテーマに部会ワークショップを開催した。食品油脂機能構造部会は9月年会で「Oral Processing and Digestion of Food Emulsions」と題したシンポジウムを開催した。オレオナノサイエンス部会は、11月に部会シンポジウム2016を開催した。マスターズクラブは、関東セミナー（3回）、東海講演会・談話会、関西見学会・講演会（2回）を開催した。

各支部及び各専門部会等は、それぞれのリーダーの指導の下、独自に運営を行っているが、企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議で情報交換などを行い、必要に応じスケジュール等の調整を行った。